

手引き（展開例）

手引き（展開例）

プログラム I-1

誰のための講座だろう？ ～参加者が主体的に話しあうためには～

ね ら い

参加者が主体的に関わることの大切さを考える。

プログラム説明

家庭教育支援団体が講座等を開催する時、支援者側の考えに参加者を導こうとしてしまいがちです。大切なことは、参加者が講座等に主体的に参加することです。ここでは、参加者が主体的に関わるためには何が大切かについて取り上げます。

主な対象・時間

対象／家庭教育支援者

時間／60分

展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	○ 学習のねらい ○ 学習の約束 ○ グループ分け ○ 自己紹介	・ねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束を確かめる。（本書P38参照） ・4～6人くらいが適切な人数です。 ・グループで自己紹介をする（1人30秒程度）。
15分	ワーク1 ① エピソードを読む。 ② アサコさんや参加者の気持ちを記入する。 ③ ②についてグループで話し合う。	・アサコさんや参加者がどんな気持ちで講座に参加してきたかに気づかせる。
10分	ワーク2 ① 主催者のマナミさんはどうすればよかったのか記入し、グループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	・主催者のマナミさんが参加者の気持ちに寄り添っていないことに気づかせる。
15分	ワーク3 ① 参加者が主体的に関わるためにどんな方法があるか記入し、グループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	・支援者は参加者が主体的に関わるための手助けをすることが大切であることに気づかせる。 ※本書P17～27参照
10分	ふりかえり ○ 気づいたことを記入し、発表し合う。 ○ 資料を参考に、支援者としての心構えなどについて、お互いで確認する。（本書P17～27参照）	・何人か発表してもらい共有する。

手引き（展開例）

プログラム I-2

聴くことの大切さ ～相手の心に寄り添って～

ね ら い

支援者の役割や聴くことの大切さについて考える。

プログラム説明

家庭教育支援団体では子育てサロンなどで親の子育ての悩みを聴く機会があります。そんなとき親の悩みを聴かずにアドバイスばかりしてしまうことがあります。ここでは、支援者の役割や聴くことの大切さについて取り上げます。

主な対象・時間

対象／家庭教育支援者

時間／60分

展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	○ 学習のねらい ○ 学習の約束 ○ グループ分け ○ 自己紹介	・ねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束を確かめる。（本書P38参照） ・4～6人くらいが適切な人数です。 ・グループで自己紹介をする（1人30秒程度）。
15分	ワーク1 ① エピソードを読む。 ② シオリさんの気持ちを記入する。 支援者トシコさんの気持ちを記入する。 ③ ②についてグループで話し合う。	・シオリさんどんな気持ちで子育てサロンに参加してきたか、また支援者トシコさんはどんな気持ちで話をしてばかりいたのかに気づかせる。
10分	ワーク2 ① 支援者トシコさんがどうすればよかったか記入しグループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	・支援者トシコさんは、シオリさんの気持ちに寄り添わずに話をしてばかりいたことに気づかせる。
15分	ワーク3 ① 聴いてもらうことで相手はどのような気持ちになるか考え、記入し、グループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	・参加者が何を聴いて欲しくて参加したのか、また、聴いてもらうことで参加者の心が軽くなることに気づかせる。 ※本書P17～27参照
10分	ふりかえり ○ 気づいたことを記入し、発表し合う。 ○ 資料を参考に、支援者としての心構えなどについて、お互いで確認する。（本書P17～27参照）	・何人か発表してもらい共有する。

手引き（展開例）

プログラム I-3

地域でつながるために ～きっかけを大切に～

ね ら い

支援者が主体的に関わり、支援者から心を開くことの大切さについて考える。

プログラム説明

講座に参加した参加者から日常生活で声をかけられることがあります。些細なことでも、参加者が、また講座等に参加するきっかけになることがあります。ここでは、そのような機会を大切に、支援者から心を開くことの大切さについて取り上げます。

主な対象・時間

対象／家庭教育支援者

時間／60分

展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	○ 学習のねらい ○ 学習の約束 ○ グループ分け ○ 自己紹介	・ねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束を確かめる。（本書P38参照） ・4～6人くらいが適切な人数です。 ・グループで自己紹介をする（1人30秒程度）。
20分	ワーク1 ① エピソードを読む。 ② アキコさんの気持ちを記入する。 ミナコさんの気持ちを記入する。 ③ ②についてグループで話し合う。	・アキコさんがどんな気持ちで声をかけてきたのか、また声をかけられたミナコさんはどんな気持ちだったか気づかせる。
20分	ワーク2 ① 参加者の心を開くために、支援者として必要なことは何かを記入し、グループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	・参加者の心を開くためには、支援者から心を開かなくてはならないことに気づかせる。 ※本書P17～27参照
10分	ふりかえり ○ 気づいたことを記入し、発表し合う。 ○ 資料を参考に、支援者としての心構えなどについて、お互いで確認する。（本書P17～27参照）	・何人か発表してもらい共有する。

プログラム
Ⅱ-1

子育ての主力は誰？
～祖父母・家族の役割を考える～

ね ら い

家庭教育の主体は親であり、家族はそれを支えて行くことの大切さについて考える。

プログラム説明

親を支えるはずの祖父母・家族が、親を差し置いて子育てに口を出してしまう場面が多々あります。ここでは、家庭教育の主体は親であり、家族はそれを支えて行くことの大切さについて取り上げます。

主な対象・時間

対象／祖父母・家族

時間／60分

展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	○ 学習のねらい ○ 学習の約束 ○ アイスブレイク（本書P28～31参照） ○ グループ分け ○ 自己紹介	・ねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束を確かめる。（本書P38参照） ・参加者の緊張をほぐし場を和やかにする。 ・4～6人くらいが適切な人数です。 ・グループで自己紹介をする（1人30秒程度）。
15分	ワーク1 ① エピソードを読む。 ② 母ユキコさんの気持ちを記入する。 ③ ②についてグループで話し合う。	・母ユキコさんが叱ったことに、祖母アケミさん・おばミキコさんが反対し、子どもがアケミさんに抱き付いた時のユキコさんのやるせない気持ちに気づかせる。
10分	ワーク2 ① かばった祖母アケミさんの気持ちを記入しグループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	・かばった祖母アケミさんは、母ユキコさんの気持ちを考えずにいたことに気づかせる。
15分	ワーク3 ① ユキコさんが叱ったとき、周りの祖母アケミさんやおばミキコさんはどんな風に行動すればよかったか考え、記入し、グループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	・祖父母・家族も子どものことを思っているが家庭教育の主体は親にあることに気づかせる。 ※本書P34参照
10分	ふりかえり ○ 気づいたことを記入し、発表し合う。 ※「孫育てガイドブック（岐阜県）」を参考にする。（本書P35～36参照）	・何人が発表してもらい共有する。 ・祖父母として、親や子に対する関わり方について確認する。

プログラム
Ⅱ-2

親の親だからこそ①
～祖父母だからできること～

ね ら い

祖父母にしかできない孫との関わり方があることに気づかせる

プログラム説明

人生の経験を積み、自分たちも子育ての苦労を重ねてきた祖父母だからこそできる孫との関わり方があります。ここでは、祖父母だからできることの大切さについて取り上げます。

主な対象・時間

対象／祖父母・家族

時間／60分

展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	○ 学習のねらい ○ 学習の約束 ○ アイスブレイク（本書P28～31参照） ○ グループ分け ○ 自己紹介	・ねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束を確かめる。（本書P38参照） ・参加者の緊張をほぐし場を和やかにする。 ・4～6人くらいが適切な人数です。 ・グループで自己紹介をする（1人30秒程度）。
20分	ワーク1 ① エピソードを読む。 ② 祖母ヨシさんの気持ちを記入する。 ③ ②についてグループで話し合う。	・孫のユウくんのお父さんが好きだった絵本に触れ、祖母ヨシさんの嬉しい気持ちとユウくんもお父さんの好きだった本を読むことを喜んでいることに気づかせる。
20分	ワーク2 ① 孫が喜ぶのはどんな時なのか考え、記入しグループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	・ゲームなどの既存のおもちゃではなく、絵本を通して、世代を超えて祖母と孫で心と心を通わせることができることに気づかせる。 ※本書P34参照
10分	ふりかえり ○ 気づいたことを記入し、発表し合う。 ※「孫育てガイドブック（岐阜県）」を参考に する。（本書P35～36参照）	・何人か発表してもらい共有する。 ・祖父母として、親や子に対する関わり方について確認する。

プログラム
Ⅱ-3

親の親だからこそ②
～祖父母だからできること～

ね ら い

祖父母にしかできない孫との関わり方があることに気づかせる

プログラム説明

人生の経験を積み、自分たちも子育ての苦労を重ねてきた祖父母だからこそ、できる孫との関わり方があります。ここでは、祖父母だからできることの大切さについて取り上げます。

主な対象・時間

対象／祖父母・家族

時間／60分

展 開 例

時間	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	○ 学習のねらい ○ 学習の約束 ○ アイスブレイク（本書P28～31参照） ○ グループ分け ○ 自己紹介	・ねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束を確かめる。（本書P38参照） ・参加者の緊張をほぐし場を和やかにする。 ・4～6人くらいが適切な人数です。 ・グループで自己紹介をする（1人30秒程度）。
20分	ワーク1 ① エピソードを読む。 ② 祖父コウイチさんの気持ちを記入する。 ③ ②についてグループで話し合う。	・祖父コウイチさんも孫のショウタくんと一緒に手作りのおもちゃを作ることを楽しそうに思い、ショウタくんもコウイチさんと一緒に、材料を集め考えて作ることで喜んでいることに気づかせる。
20分	ワーク2 ① 孫が喜ぶのはどんな時なのか考え、記入しグループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。	・ゲームなどの既存のおもちゃではなく、手作りのおもちゃを通して、世代を超えて祖父と孫で心と心を通わせることができることに気づかせる。 ※本書P34参照
10分	ふりかえり ○ 気づいたことを記入し、発表し合う。 ※「子育てガイドブック（岐阜県）」を参考に する。（本書P35～36参照）	・何人か発表してもらい共有する。 ・祖父母として、親や子に対する関わり方について確認する。

プログラムシート（プログラムのアレンジや計画に使えます）

プログラム名 (講座名)	
ね ら い	
対象・人数	
日 時	
会 場	
広報の計画	

展 開

時間	学習内容	展開のポイント・注意点	役割（担当）・準備物

アンケート

あおもり親楽プログラムを活用した感想をおしらせください

あおもり親楽プログラムを活用した学習についてのアンケート

1 活用したプログラム名 () 活用機会 ()

2 「あおもり親楽プログラム」を活用した学習について（あてはまるものに○をつける）

（１）参加者等の感想

- ① とてもよかった ② よかった ③ あまりよくなかった ④ よくなかった

（２）このプログラムを活用した学習でよかったこと（３つまで）

- ① いろいろな人の意見を聞くことができた
② 子どもとの関わり方のヒントを得ることができた
③ エピソードがわかりやすかった
④ グループでの話し合いは意見がだしやすかった
⑤ 話し合いで出た意見は自分の子育てに生かせそうだ
⑥ 話し合いで自分の家庭教育や子育ての悩みがいくぶん解消された
⑦ 他の人と、または他の機会にも親楽プログラムを使ってみたい
⑧ その他（具体的に

（３）このプログラムを活用した学習で悪かったこと（３つまで）

- ① 親楽プログラムの使い方がよくわからなかった
② もっと多くのエピソードがあればいい
③ 親楽プログラムの活用に時間がかかる
④ 親楽プログラムの書き込み欄をどのように記入したらよいかわからなかった
⑤ 家庭教育や子育てでどうすることがいいのか、正しいやり方がわからなかった
⑥ 話し合いの後、どのようにまとめたらよいかがわからなかった
⑦ 資料をどのように提示したらよいかわからなかった
⑧ その他（具体的に

（４）親楽プログラムについてのご意見やご感想を記入してください。

3 今後、付け加えたらよいと思われるエピソード（例：いじめへの対応、学校との関わり方など）や研修方法などについてご意見があれば記入してください。

ありがとうございました。アンケートは、下記までお送りくださるようお願いいたします。

青森県教育庁生涯学習課 〒030-8540 青森市新町 2-3-1 FAX 017-734-8272 へ

<参考>

つながりが創る豊かな家庭教育

～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～

文部科学省

学習プログラム立案の技術

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

生涯学習支援のためのワークショップ参加型学習のすすめ方「参加」から「参画」へ

ぎょうせい

親教育プログラムのすすめ方 ファシリテーターの仕事

ひとなる書房

いま、なぜ？地域交流Part 1

フレーベル館

「国勢調査」(平成22年)

総務省

「人口動態調査」(平成25年)

厚生労働省

「子どもと子育てに関する調査」(平成25年)

青森県

「青少年の意識に関する調査」(平成24年度)

青森県

「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」(平成22年度調査) 独立行政法人国立青少年教育機構

「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」(平成22年度調査) 独立行政法人国立青少年教育機構

「平成22年都道府県別生命表」

厚生労働省

「全国・学力学習状況調査」(平成25年度)

文部科学省

「学校保健統計調査」(平成25年)

文部科学省

「孫育てガイドブック～孫でマゴマゴしたときに読む本」

岐阜県健康福祉部子ども・女性局子育て支援課

◆本書は平成26年度青森県家庭教育支援推進協議会の意見を踏まえて作成されたものです。

平成26年度青森県家庭教育支援推進協議会委員

会 長 青森県立保健大学健康科学部 教授

中 村 由美子

副会長 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師

深 作 拓 郎

浪打カトリック幼稚園父母と教師の会 会長

神 山 章 能

青森県子ども家庭支援センター 部長

吉 田 圭 子

青森市立高田小学校 校長

川 村 慈 子

黒石市立黒石幼稚園 教頭

田 中 昭 一

青森市教育委員会社会教育課 主査

杉 山 明 子

NPO法人子育て応援隊ココネットあおもり 代表

沼 田 久 美

鰯ヶ沢町子育てサポートセンター アドバイザー

上 野 志津子

青森県総合社会教育センター家庭教育支援員

吉 川 恭 子

(敬称略、順不同)

※『あおもり親楽プログラム』は青森県庁ホームページ 「家庭教育支援推進事業」

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/tunagariaisasaai.html> からダウンロードできます。

ー身近なエピソードから学ばー

あおもり^{おやがく}親楽プログラム

編集・発行

青森県教育庁生涯学習課

青森市新町2丁目3-1

017-734-9890

平成27年3月発行

この印刷物は、1,500部作成し、印刷経費は1部あたり181.44円です。